

じもと
地元

川崎をもっと素敵に

金村りゅうな本人はもちろん、事務所スタッフも一丸となって、川崎市内の至る所で地元のみなさまの声を集め、もっと素敵な川崎市の実現のために毎日活動しています。



03 昼間経済の活性化

東京のベッドタウンとして川崎市が順調に成長している反面、昼間人口の流出によって、地元の商店街など昼間経済の活性化が課題となっています。地方創生補助金など一時のお金を配ってお茶を濁すのではなく、クリーニング店など対面接客が義務付けられている業種へのネットサービスの解禁や、食品衛生を守った上で惣菜などを置き配できるルールの整備など、地元の商店が川崎の新しい住民のみなさんにも対応した商売のやり方ができるように法改正、規制改革を国で実施すべきです。



04 高齢者の安全・安心

新しいマンションが建つ一方で、昔ながらのコミュニティが希薄化し、一人暮らしの高齢者に目が行き届かなくなっているのが心配です。老朽化した公営住宅の建て替えなどを契機に、ひらかれたコミュニティスペースを積極的に創り出していくことで、孤立を生まない優しい街づくりが実現できると思います。



毎日たくさんの方の声を頂きながら活動しています！
ぜひあなたの悩みもお聞かせください！

ご意見はメールまたはFAXで！
official@ryuna-kanemura.jp
FAX : 044-366-8681

01 都市の災害対策

東京のベッドタウンとして順調に成長を続ける川崎市ならではの課題のひとつが災害対策です。喫緊の課題となっている高層マンションの水害・防災対策などは市単独での実施は難しく、地元の国会議員が積極的に国との調整役を果たすことが重要です。



02 行政のデジタル化

川崎市民の多くは昼間、東京に勤めに出ています。そのため、子育てのことや税のことなど役所での手続きが必要な場合、役所の開いている昼間に市内まで戻ってくる事が難しいのが難点です。タワーマンションの増加などで新しい住民も多い川崎市だからこそ、他都市に先んじて自治体のデジタル化を進め、スマホ一つであらゆる行政手続きができるように、自治体のデジタル化を進めることで、もっと暮らしやすい川崎を実現する事ができます。

金村りゅうなの

川崎愛

私と川崎との出会いは14年前に議員秘書として川崎へと赴任したことがきっかけです。当時新天地でのリスタートに期待を膨らませていた私は、京浜工業地帯から東京のベッドタウンへの変化に留まらず独自の進化を遂げる川崎に自らを強く重ね合わせていました。そして議員秘書、児童福祉施設経営者として14年にも渡り携わることになった川崎も、現在では多様性の象徴として成長し続けています。しかし急激な成長痛ともとれる課題も地域のなかでは浮き彫りとなっています。私は自らのリスタートを重ね合わせた、この川崎の地で頑張る人が報われる社会を創りたい。そして全ての人がチャレンジできる環境を整え、未来に希望をもてる日本を創る。大切なのは私たち一人一人が自らの選択肢において決断し、人生を歩んでいける前向きな日本です。私はこの川崎の地で実現します。

